



2013

キャンパス・コンソーシアム函館
合同公開講座

函館学 2013

第4回講座
講義資料

津軽海峡にある動物分布の境界線

— 函館特有の動物相からブラキストン線をみる —

村上 貴弘 北海道大学教育大学函館校 准教授

日時：平成 25 年 9 月 28 日（土）午後 1:30 ～ 3:00

会場：北海道教育大学函館校

主催：キャンパス・コンソーシアム函館

講師略歴

むらかみ たかひろ

村上 貴弘 北海道教育大学函館校 准教授

北海道教育大学教育学部環境科学専攻 准教授

昭和46年神奈川県生まれ。1993年茨城大学理学部卒業、1998年に北海道大学地球環境科学研究科にて博士課程修了（博士号：地球環境科学）。北海道大学、京都大学、テキサス大学、カンザス大学、理化学研究所で博士研究員をした後、2006年愛媛女子短期大学専任講師、2008年北海道教育大学函館校に准教授として赴任し、現在に至る。専門は保全生態学、行動生態学。研究対象種はアリ、プラナリア、イモリ、ほ乳類など。今年6月NHKの「ダーウィンが来た！」と「ワイルドライフ」、そして「地球ドラマチック」で相次いで研究内容が紹介されている。

津軽海峡にある動物分布の境界線
～函館特有の動物相からブラキストン線をみる～

北海道教育大学函館校環境科学専攻
准教授 村上貴弘

【本講座の目的】

函館の魅力的な価値は人間の歴史だけではありません。私が、函館・道南地域の自然環境を 5 年間研究することで、この地域が他に比べ非常に独特で興味深い特徴を多く持つことに気がつきました。恐らく皆さんの知らない函館・道南地域の魅力を知っていただくこと。それが本講座の目的です。

【内容】

- (1) 函館・道南地域の地誌的特殊性について・・・地形、海流、ブラキストン線など、この地は非常に特殊な環境である！
- (2) 函館山のキタキツネとエゾシマリス・・・陸繋島である函館山に生息するほ乳類は氷河期の生き残りだった！
- (3) 道南地域のエゾシカ・・・近年、北海道で大きな環境問題になっているエゾシカの増加。道南でも大きな問題になりつつある。また、道南のシカの中に、とんでもなく遠方からやってきた個体群が存在した！
- (4) アリ類の寒冷地適応と道南地域・・・北海道に生息するアリ類は寒冷地適応するために『省エネ型』女王アリで乗り切っていた！

【まとめと提言】

函館・道南地域は、独特な自然環境を持っています。その中で長い時間育まれた動物相は時に氷河期から数十万年孤絶した非常に貴重な『生きた標本』です。地元の人々は、その豊かな自然環境の魅力に気がつきにくいものです。多くの市民に、自分たちの生活している場所が特別な意味を持つ地であることを理解していただきたい。そして、それを他の地域に発信していくことで、「観光」、「移住」、「若者の U ターン」を促進し、地域の活性化を図っていけるものと考えています。